

### 第3学年 保護者の皆様

4月に実施されました『全国学力・学習状況調査』の結果がでましたので、その結果に基づき、本校の教育課題を明らかにし、学力向上に向けた今後の取組等を、次の資料にまとめましたのでご一読ください。

- ◆『我が校の強み弱み分析・評価シート』：本校生徒の強み・弱み及び生活実態分析  
授業改善等、本校の具体的な取組内容

なお、分析結果については、全教員が共通理解し、学ぶ力向上策に基づく授業改善等、新たな取り組みも推進したいと考えております。保護者の皆様もご一読いただき、ご理解・ご協力をお願いします。

## 【令和5年度『全国学力・学習状況調査』分析結果】

### 我が校の強み弱み分析・評価シート

#### ◇ 結果

#### 《強み・弱み》

【国語】 総合的な正答率は全国平均よりやや劣るが、滋賀県の平均値は超えている。「思考、判断、表現」の分野が優れており、特に「書く」ことに関しては全国平均を大きく上回っている。無回答はすべての設問で顕著に改善しており、記述式問題にも対応できている。「知識、技能」が若干劣る。具体的には「言葉の特徴や使い方」が理解できていない。また「我が国の言語文化」に関すること＝古文の分野では読み取りはできているが、「歴史的仮名遣い」のような知識分野が定着していない。

【数学】 主体的に身につけてきており、それが無回答率の低さに表れている。また、記述式の問題の正答率が全国より高い。反復学習の成果が出ている。一方、数学の用語のうち、使用頻度が低い用語の理解が課題である。日常生活や社会の事象と数学の事象をつなげて考えることに課題がある。

【英語】 グラフや絵など視覚的な情報がある問題については積極的に取り組んでいる。空欄に入れる適切な語句を正しく選んだり、与えられた単語を適切な形に変化させたりすることは正答率が高い。場面の状況が限定されているようなものについては定型文を使って表現できている。選択肢があると正確に答えられている。

一方、長文を読み、その要点を捉えることに課題がある。「書くこと」について、自分の考えや意見を整理して英語を伝えることが苦手である。テーマが広いと上手く書くべき答えをまとめることができない。

【課題】 国語・数学・英語ともに「強み」と「弱み」がはっきり分かれており全国の平均正答率をかなり下回る問題も見られた。文章で表現したり、資料を読み解く力に改善が見られた一方、「知識」が定着できていない分野も見られた。

**◆ 生徒質問紙**

《国語》 50%以上の生徒が「国語が好き」と回答している。また90%近い生徒が「国語の勉強は大切だ。」「国語の授業は将来社会に出たときに役に立つ」と考えており、主体的に学習に取り組んでいると思われる。「国語の授業内容がよくわかる」と回答した率は77%であった。

《数学》 「数学の勉強が好き」「よくわかる」「あきらめずに考える」については肯定的な回答が全国平均より高い。少人数指導や習熟度別学習の効果と考えられる。また、数学の授業が社会に出てから役立つと考えている生徒が多い。

《英語》 授業に積極的にタブレットを使用しているため、「ICT機器を使用して学習することは効果的だ」と考えている生徒は多い。「教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動」を積極的に行っていると感じている。1・2年に学習した内容が役に立っていると考えている生徒多い一方で、英語の授業が将来に役立つと考えている生徒は全国平均より低い。

**【生活実態】****1.生活習慣・学習習慣**

- ①朝、朝食を食べてきている生徒、決まった時刻に起床・就寝する生徒が多く、基本的な生活習慣は身につけているといえる。
- ②計画的な家庭学習の習慣を身につけている生徒は全国平均と比べて低くなっている。
- ③読書や新聞を読む時間は全国平均より少ない。
- ④タブレット端末を効果的な活用については、全国平均を大きく上回っている。

**2.自己有用感・学校満足度**

友達関係・学校生活に満足している生徒は全国平均と比べて高い。また、「将来の夢・目標を持っている」「自分には良いところがある」生徒の割合が全国平均より高い。さらに、学校生活や授業の中で自分の考えを深めたり考えたりすることができる生徒が多い。

**3.規範意識**

「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」「人の役に立ちたい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と思っている生徒の割合は高く、規範意識を育んでいる生徒が多いと考えられる。

**◇ 指導の充実に向けて**

本校では、「心豊かでたくましく社会を生き抜く子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、生徒は日々の教育活動を通し、集団生活の中で達成感や満足感を味わいつつ「将来の夢や目標」を思い描いている。

家庭ではスマートフォンの利用機会が増え、家庭学習の時間に影響しています。また、読書に費やす時間がまだまだ短いので、引き続き読書の充実に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。一方、学校での「協働的な学び」や「タブレット端末を活用した学習」が定着してきており、その取り組みに生徒は満足している。

このような本校生徒の実態を鑑み、今年度の全国学力・学習状況調査の結果に基づいて授業改善を進め、家庭や地域と連携・協働しながら特色ある学校づくりを推進し、次代を生き抜く力を育むよう支援していきたいと考えている。

**■学力向上策について****【国語】**

- 昨年度の全国学力・学習状況調査の分析を踏まえ、「論理的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げ、深めること」をめざした。そのうえで「それを他の人に伝える」という学習を積み上げてきた。その成果が表れてきている。今後も「話す・聞く 読むこと 書くこと」のすべての学習が成立するよう、授業の中では「学び合い学習」「レポート、意見の発表、討論」など様々な仕組みの中でトレーニングを繰り返す。
- 社会生活に必要な国語の知識や日本の文化伝統を理解すること、具体的には「漢字 語句 文法 古典 書写」の分野に少しく弱み>があるので、反復学習を行う。

**【数学】**

- ウォーミングアッププリント等を継続して行い、基礎的な力の定着を図る。
- 少人数指導のよさを生かし、個々の能力を掌握することで、一人ひとりにあった志度の工夫をしていく。
- 根拠や理由を明確にして、表現ができるように過程を大切にす。

**【英語】**

- 発展的な問題やテーマ作文にも積極的に取り組んでいく。
- 自分のことや考えを英文でまとめ、それを伝える機会を増やす。
- ICT機器を利用し、つくった英文を生徒同士で交流しあい添削するような活動を増やしていく。
- 教科書の長文や過去の入試問題等の長文を読み、要点を捉える学習を積み重ねる。

**■家庭における学習対策****【国語】**

- 読書を生活の中に取り込み、また言語文化を大切にして自分の思いや考えを伝えあう態度を重要視している。具体的には家庭での読書の奨励である。そのため読書週間の利用、図書の知識提供を行う。またどの学年も読書紹介と読書感想文を長期休業の課題として必須とした。
- また、授業内容のに関しては日常的に記述問題を家庭学習として課し、またその内容をメタモジアプリで共有するという方法をとっている。全国学力・学習状況調査の結果からも有効であると考えている。

**【数学】**

- プリントやワーク等を使用して学習内容の定着を図る。
- eライブラリーを活用して個々の理解度に合わせた学習方法の提供をする。

**【英語】**

- タブレット端末を持ち帰りデジタル教科書を用いて予習・復習をする。
- 音読の練習を宿題に出し、その成果を授業で発表したり、教科担当がチェックする等、「読むこと」「話すこと」を意識した学習を進める。